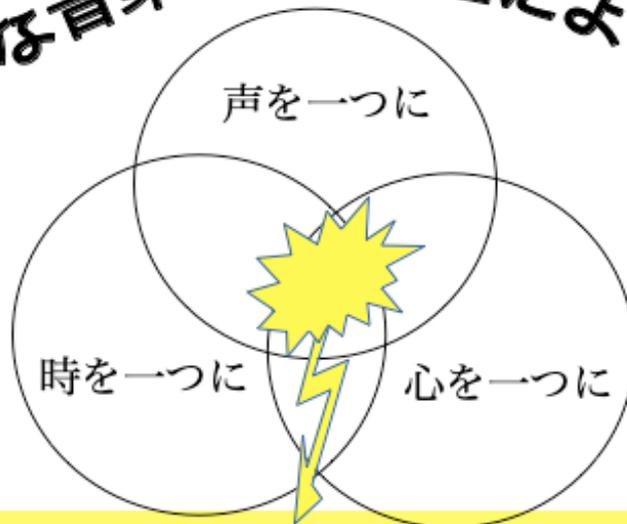


第2回

音楽・歌声教室 テキスト

ポップな音楽・歌声教室によろこそ!



音楽の力:Power of Music

Ver.1.0 鈴木麻美・藤森潤一

第4回 元気をつけましょう！

さて、“ポップな音楽・歌声教室”の1回目、2回目、3回目のビデオは楽しんでいただけましたか？

そして予告として、

- “第4回 ノリましょう 銀座かんかん娘”では歌のノリを中心に練習、
 - “第5回 澄ましましょう 見上げてごらん夜の星を”では歌の肌理を整えることを中心に練習、そして最後に
 - “第6回 みんな一緒に歌いましょう！”ライブができればいいな！
- とっておりました。

ところが、皆さんご承知のようにCOVID-19の感染が収まらず非常事態宣言が出される状態が続いています。ここに来てやっとワクチンによる感染の予防に期待ができるようになったのは嬉しいことです。

とは言え、集まって大声で歌を唄うという事は特に感染リスクが高いために、気軽に歌声教室を再開できない状況です。そしてステイホームに協力していると色々とストレスが溜まってしまうという問題が多く指摘されています。実際、医療ネットワークセンターのアンケートによりますと、声を出す機会がほとんどなくなっているため、声が出にくいように思われている方がいらっしゃるようです。

そこで！ ポップな音楽・歌声教室の後半は予定を変更して、すこしでも声を出して元気にステイホームしていただくことに焦点をあてる内容にしたいと思います。

声を出す時間について

1日に声を出す時間がどのくらいあるかは、お一人お一人の環境によって大きく変わるのでしょう。一例として、ある夫婦の会話の時間に関するアンケートによれば、平日で10分未満と10分～30分未満がそれぞれ20%くらい、休日でそれぞれ10%くらいという結果があります。これを良しとするかどうかは別にして、ともか

く仮にお一人でステイホームを実践されている方に、少なくとも1日10分の声出しを目標にしたいと思います。そんな10分では物足りない！と思われるかたは、連続して時間を増やすより、まず1日あたりの回数を増やすほうが、体への負担が少なく効果を上げることができると思います。

楽しい練習にしましょう！

ポップな音楽・歌声教室ですから、COVID-19と共存できるようになったら、みんながライブができるような曲をネタに、声を出していきましょう。そこでみなさんからのリクエストに度々あがっているという曲”オー・ハッピー・デイ (Oh Happy Day)”をネタに取り上げようと思います。

この曲は米国の映画”天使にラブ・ソングを2 (Sister Act 2)”のバージョンがよく知られているようで、まさにこれをネタにしようという魂胆です。インターネットが使える環境にいるかたは、YouTubeなどにOh Happy Dayをゴスペルのコンテストで歌う場面がアップされているので、いつでも内容を確認できるでしょう。では、このネタでどう練習するかですが、ポップな音楽・歌声教室ではまずその映画音楽の編曲を分析(やや大げさですが)して、いくつかの部分に分けて練習メニューを作りました。

編曲の構成は次のようです。

- [A] コール・アンド・レスポンス 1 (ユニゾン)
- [B] 音階練習 1
- [C] 音階練習 2
- [D] コール・アンド・レスポンス 2 (コーラス)
- [E] 音階練習 3
- [F] ユニゾン/コーラス
- [G] コール・アンド・レスポンス 3 (アドリブ)

[H] コーラス

これを見ると必要な素材は全部入り、まさにカモねぎですね!

実際の練習メニューですが、今ご覧いただいている第4回のビデオに続いて、

第5回 音階とユニゾン練習

第6回 コール・アンド・レスポンス

を用意しています。これら2つのメニューのどちらを先にやっていただいても結構です。どちらのビデオも練習を中心に作られていますので、解説などは今回のビデオをご覧ください。

※DVDの内容は下図のようになっていますので、併せてご確認ください。



<メニュー画面>

第5回 音階とユニゾン練習のポイント

ここでは音階練習といわゆるサビの部分のメロディーを練習します。

音階練習

音階練習といっても普通の音階練習ではなくて、映画のシーンとして作られたものをそのままです。ですので、音程がしっかりとれた後のポイントは音階そのものよりリズムとかアクセントに気をつけるとよいでしょう。

とは言え、ポップな音楽に慣れ親しんでいる人でも4拍子の基本である1小節に4拍を意識する事を発展させて、1小節に8拍(8ビート)とか16拍(16ビート)を意識する事は難易度が高いと思います。ですので、初めはゆっくりとしてテンポで、手のひらなどで一定の拍子を刻みながら声をだす練習からはじめましょう。

次の解説はすこし高度な内容になっていますので、興味のある方だけ挑戦してみてください。次の楽譜は音階練習のビデオにも表示されますので、音と楽譜を同時に確認することができます。

下の表は1小節を16拍に分けて、その何処で発声をするかを示したものです。一番上の行が拍子の番号です。日本語で読むときは、いちと、にと、さんと、しと、にと、にと、さんと、しと、さんと、にと、。。。のように読むこともあります。

二番目の行は、1小節8拍のパターンを書いています。これは上の楽譜の青い枠で囲ま

れている部分に対応します。三番目の行は、1小節16拍のパターンを書いています。これは上の楽譜の赤い枠で囲まれている部分に対応します。

ビデオに合わせて、手のひらなどで拍子を刻みながら声を出してみましょう。

1 ₁	1 ₂	1 ₃	1 ₄	2 ₁	2 ₂	2 ₃	2 ₄	3 ₁	3 ₂	3 ₃	3 ₄	4 ₁	4 ₂	4 ₃	4 ₄
X	-	x	-	x	-	X	-	x	-	x	-	X	-	-	-
x	-	-	x	-	-	x	-	-	x	-	-	x	-	-	-

ちなみに、よりプロフェッショナルな練習についてもご紹介しておきましょう。今回の表は声を出し始めるタイミングを示していますが、プロとしてはそれだけではなく、いつ音を止めるかのタイミングも意識することで微妙な音のニュアンスを作り出すように訓練することもあります。

ユニゾン練習

いわゆるサビの部分のメロディーを練習します。映画の中では全部が斉唱(ユニゾン)ではなく、合唱(コーラス)になっていますが、ポップな音楽・歌声教室の第1回でお話したように、まずはユニゾンの力強さを追求してみたいという思いであえてユニゾンにしています。とくに一人で声を出すことをやる場合には、やはり判りやすい主旋律で歌うのが適切だとも思います。

こちらはビデオといっしょに、できるだけ大きな声で歌ってみてください。同じことの繰り返しで飽きてしまうという方は、伸ばす音のだんだん大きくしていく(クレシェンド)といった表現を試してみるのも良いかもしれません。映画の中ではあまりそのような表情をつけた歌い方はしていませんが、筋力のトレーニングにもなると思いますので、オススメです。もちろん、ゆくゆくコーラスの部分も追加するのも良いと思っています。今回はシンプルな2声のコーラスを参考のために教材ビデオに含めています。

第6回 コール・アンド・レスポンスのポイント

コール・アンド・レスポンスとは、この曲のようにゴスペルのスタイルで使われる手法で、主旋律を歌う人(複数のこともある)の呼びかけるような歌のフレーズに続いて、副旋律を歌う人々(単数のこともある)がその呼びかけに答えるようなフレーズを歌うという形式のことです。このような形式は多くのポップな音楽に取り入れられています。そして映画の中でも行われているように、主旋律を自由に変形して歌う、いわゆるアドリブと、それに呼応するような伴奏(バックিংとも言われます)の組み合わせに発展していきます。さらに呼応する人も自由に歌うように発展したスタイルもあります。例えば器楽演奏ではデキシーランドスタイルのジャズでは、何人もの管楽器奏者が入り乱れて応答するような演奏を聴くことができます。

ここでは、コールとレスポンスそれぞれに合わせた音源を用意していますので、どちらでも好きなほうで歌ってみてください。

最後に

やっぱり音楽は、リモートでなくてライブが一番ですね！ できるだけ早くCOVID-19とうまくやっていけるようになって、一緒にステージに立てる日がそれほど遠くない日に実現すると期待しています。

みなさん、声を出して、体を動かして、次のライブにいっしょに備えましょう！